

広告・メディア・エンタテインメント

1. 評価対象企業 (20 社)

【広告・メディア】(10 社)

博報堂 DY ホールディングス、電通グループ、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、TBS ホールディングス、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、KADOKAWA、東宝、東映

【エンタテインメント】(10 社)

コーエーテクモホールディングス、ネクソン、オリエンタルランド、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、エイチ・アイ・エス、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミグループ

(証券コード協議会銘柄コード順)

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	28
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	12
計		11	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 36 名 (所属先 24 社) である。(氏名等は後掲)

3. 評価結果

(1) 総括 (「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲)

- ① 本年度は、評価項目分野のうち ESG 関連を中心に項目内容・配点を見直すなどの変更があり、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 62.9 点 (昨年度 62.4 点)、総合評価点の標準偏差は 11.4 点 (昨年度 10.1 点) となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、広告・メディア (10 社) が 60.6 点 (昨年度 59.6 点)、エンタテインメント (10 社) が 65.2 点 (昨年度 64.8 点) となり、両業態共にやや上昇した。なお、個社では、TBS ホールディングス (+10.1 点) およびリクルートホールディングス (+7.0 点) の上昇が目立った。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率 (評価対象企業の平均点/配点 (以下省略)) を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 65% (昨年度 66%)、説明会等が 67% (昨年度 68%)、フェア・ディスクロージャーが 74% (昨年度

72%)、ESG 関連が 61% (昨年度 58%)、自主的情報開示が 46% (昨年度 41%) となった。自主的情報開示は、昨年度に比べ改善したものの、40%台にとどまった。

- ④ 評価項目について見ると、平均得点率が 80%以上となった項目は、次のフェア・ディスクロージャーの中の 1 項目であった (昨年度は 80%以上の項目はなし)。

- ・ 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」(平均得点率 80% [昨年度 77%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)) : 50%台 1 社・60%台 2 社・70%台 5 社・80%台 9 社・90%台 3 社)

- ⑤ 一方、次の自主的情報開示の項目は、昨年度に比べ平均得点率が改善したものの、引き続き最も低い水準となった。

- ・ 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会 (IR デーや記者発表会等を含む) を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」(平均得点率 46% [昨年度 41%]) (得点率 : 20%台 2 社・30%台 5 社・40%台 7 社・50%台 3 社・60%台 1 社・70%台 2 社)

- ⑥ ESG 関連の 4 項目 ((c) は本年度の新設項目) は、次のとおりとなり、いずれも 60%台であった。各項目共に、上位評価企業と下位との差が大きい状況が見られる。

- (a) 「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」(平均得点率 60% [昨年度 59%]) (得点率 : 20%台 1 社・30%台 1 社・40%台 3 社・50%台 7 社・70%台 7 社・80%台 1 社)

- (b) 「価値創造プロセスおよび経営の重要課題 (マテリアリティ) の設定が行われ、開示されていますか」(平均得点率 62% [昨年度 58%]) (得点率 : 30%台 1 社・40%台 5 社・50%台 3 社・60%台 4 社・70%台 1 社・80%台 4 社・90%台 2 社)

- (c) 「環境保全に関する情報、社会に関する情報、人的資本に関する情報について、積極的に開示していますか」(平均得点率 63%) (得点率 : 20%台 1 社・40%台 2 社・50%台 7 社・60%台 2 社・70%台 5 社・80%台 2 社・90%台 1 社)

- (d) 「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか」(平均得点率 60% [昨年度 55%]) (得点率 : 30%台 1 社・40%台 5 社・50%台 3 社・60%台 6 社・70%台 3 社・80%台 2 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 リクルートホールディングス (ディスクロージャー優良企業 [2 回目])、

総合評価点 77.0 点 [昨年度比+7.0 点]、昨年度第 8 位)

- ① 同社は、ESG 関連が第 1 位 (得点率 (以下省略) 87%)、自主的情報開示が第 3 位 (68%)、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位 (76%)、説明会等が同得点第 5 位 (73%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 14 位 (71%) となった。昨年度に比べ、4 分野において得点率が改善し、特に、ESG 関連の伸びが大きかった。

- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、2 項目共に、昨年度に比べ得点率が改善し、特に、「IR 部門の機能・基本スタンス」は 20 ポイント以上の上昇となった。これらの結果、この分野において第 4 位 (昨年度第 13 位) となった。これらに関連して、説明会などにおいて経営トップが自らの言葉で説明、回答する機会が増えたとの声が寄せられたほか、決算説明会や ESG カンファレンスの場に担当役員が出席し説明していることを評価する声があった。IR 部門については、専門性が高く、有益なディスカッションができるとの声や、個別取材への対応を評価する声が寄せられた。

- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」(第 5 位) および「説明資料等 (短信およびその付属資料を含む) における開示」(同得点第 10 位) は共に、昨年度と同程度の得点率となった。これらに関連して、HR テクノロジー領域を中心に、説明内容が質・量ともに充実してきているとの声や、説明会後のスモールミーティング開催およびその内容の適時の開示を評価する声が寄せられた。なお、Indeed に関するデー

タが不足しているとの声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、2項目共に、昨年度に比べ得点率が改善したものの、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第15位）は、平均得点率に達しなかった。これらに関連して、IRへのアクセスが改善された点を評価する声があった。一方で、国内M&S事業に関する開示が不十分であるとの声や、会社側が面談する投資家を選別しているとの声もあった。
- ⑤ **ESG関連**においては、4項目のうち3項目が最も高い評価となった。「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていること」（第2位）についても90%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、ESGデータやレポートで関連数値や取組みなどが詳細に示されているとの声や、ESGに特化したセッションを定期的開催していることを評価する声が寄せられた。また、統合報告書の内容の充実を評価する声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」（第3位）は、昨年度に比べ得点率が改善した。充実していたイベントとして、ESG Fireside Chat（座談会）を挙げる声が多かった。また、定期的な経営方針説明会を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 セガサミーホールディングス（総合評価点 76.5点〔昨年度比-0.7点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（80%）、**説明会等**（83%）が第1位、**ESG関連**が第3位（79%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第4位（80%）、**自主的情報開示**が第6位（50%）となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**の得点率が下がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」および「IR部門の機能、基本スタンス」が共に最も高い評価（同得点第1位を含む）となった結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営トップは市場との対話に積極的に取り組んでおり、投資家やアナリストの意見を吸い上げようという意識があるとの声が寄せられた。また、IR部門の専門性が高く、ディスカッションが有益であるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が最も高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」もトップと僅差の第2位となった。これらに関連して、決算説明会資料等の内容は質・量共に充実しているとの声が寄せられ、ゲームソフトの新作・旧作の売上高の開示を評価する声もあった。なお、IR部門からのさらなる情報提供を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第2位）および「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第6位）が共に、昨年度に比べ得点率を改善した。これらに関連して、説明会の動画配信、質疑応答の開示、個人投資家向けサイトを評価する声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」が、トップと僅差の第2位となった。また、「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示していること」（第3位）および「環境保全に関する情報、社会に関する情報、人的資本に関する情報について、積極的に開示していること」（第3位）は共に、80%以上の得点率となった。これらに関連して、統合レポートの内容が充実しており、同レポートを通じてESG情報の開示に積極的に取り組んでいるとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」（第6位）は、昨年度に比べ得点率が下がった。充実していたイベントとして、遊技機工場見学会を挙げる声があった一方、マネジメントのスマールミーティングを望む声があった。

第3位 オリエンタルランド（総合評価点 75.2点〔昨年度比-2.6点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第1位（78%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（82%）、**経営陣のIR姿勢等**が同得点第5位（75%）、**ESG関連**が第7位（74%）、**説明会等**が第9位（72%）となった。昨年度に比べ、**経営陣のIR姿勢等**および**説明会等**の得点率が下がった。

- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第 4 位となり、「IR 部門の機能、基本スタンス」が第 6 位となった。これらに関連して、社長や IR 担当役員と投資家との直接面談の機会が設定されている点を評価する声がある一方、ガバナンス面において投資家の意見へのリアクションが十分でないとの声があった。また、CEO ミーティングを望む声があった。IR 部門については、情報の集約に努めており、有益なディスカッションができるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」(第 6 位) および「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」(同得点第 10 位) は共に、昨年度に比べ得点率が下がった。これらに関連して、取材への対応や説明会での質疑応答を評価する声が寄せられた一方、会社計画の前提の説明が不十分であるとの声や、四半期毎の入園者数などのデータの開示を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 2 位) が、90%以上の得点率となった。また、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 2 位) も、昨年度に比べ得点率を改善した。これらに関連して、IR 担当者間で情報開示のラインが共有されており、公平さを意識した IR 対応がなされているとの声のほか、説明会の音声配信や質疑応答の開示を評価する声があった。なお、決算発表後に月次動向をヒアリングできる点を評価する声がある一方で、月次情報の開示を望む声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」が同得点第 3 位となった。これに関連して、初めての統合報告書の発行を評価する声が寄せられた。「価値創造プロセスおよび経営の重要課題(マテリアリティ)の設定が行われ、開示されていること」(同得点第 4 位) は 80%以上の得点率となった。これに関連して、ESG の取組みの軸を従業員に向けた点を評価する声とともに、具体的な目標の設定などを望む声があった。なお、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」は第 11 位となった。これに関連して、社外取締役の選任基準等についての十分な説明を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会(IR デーや記者発表会等を含む)を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は最も高い評価となった。これに関連して、施設見学会が有益との声が多数寄せられ、見学会の定期的な開催により、エリア開発の状況がアップデートできるとの声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

- **TBS ホールディングス(ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 72.4 点[昨年度比+10.1 点、一昨年度比+13.7 点]、第 7 位[昨年度第 11 位、一昨年度第 15 位])**
 - ① 同社は、自主的情報開示が第 2 位(74%)、経営陣の IR 姿勢等(72%)、フェア・ディスクロージャー(79%) が第 7 位、ESG 関連が第 8 位(71%)、説明会等が第 11 位(70%)となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善し、特に、自主的情報開示の伸びが大きかった。
 - ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、2 項目共に、昨年度に比べ得点率が 10 ポイント程度改善した。これらに関連して、経営トップは市場との対話に積極的に取り組んでおり、市場参加者の声に耳を傾けようとする姿勢が見られるとの声が寄せられた。また、IR 部門の機能については、ここ数年向上しており、建設的なディスカッションや意見交換ができるとの声があった。
 - ③ **説明会等**においては、「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」(同得点第 6 位) が、昨年度に比べ得点率を 10 ポイント以上改善した。これに関連して、説明会資料は四半期ごとの KPI も掲載されており、有用であるとの声や、説明会の質疑応答では有意義な回答が得られるようになったとの声が寄せられた。なお、資本効率向上への道筋をより具体的に説明することを望む声があった。
 - ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 4 位) が、85%以上の得点率となった。また、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 8 位) も、昨年度に比べ得点率を改善した。
 - ⑤ **ESG 関連**においては、「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」が第 7 位となった。これに関連して、統合報告書に ESG 関連のデータがまとまっており、わかりやすいとの声があった。なお、政策保有株式売却や株主還元方針の説明を評価しつつ、さらなる説明強化が課題との声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は得点率が大きく改善し、第2位となった。これに関連し、赤坂本社、新スタジオの見学会や、社長スモールミーティングを評価する声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (広告・メディア・エンタテインメント)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR専門の機能、IR の基本スタンス 評価項目2 (配点30点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目2 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点10点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目4 (配点28点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点12点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6098 リクルートホールディングス	77.0	22.9	4	14.5	5	7.1	14	24.4	1	8.1	3	8
2	6460 セガサミーホールディングス	76.5	24.0	1	16.5	1	8.0	4	22.0	3	6.0	6	2
3	4661 オリエンタルランド	75.2	22.6	5	14.3	9	8.2	2	20.7	7	9.4	1	1
4	2433 博報堂DYホールディングス	74.6	23.0	3	16.2	2	8.2	2	22.3	2	4.9	13	7
5	9697 カブコン	73.0	23.1	2	16.0	3	7.8	8	20.8	5	5.3	11	4
6	7832 バンダイナムコホールディングス	72.5	21.4	8	14.4	8	8.0	4	21.9	4	6.8	4	3
7	9401 TBSホールディングス	72.4	21.7	7	14.0	11	7.9	7	19.9	8	8.9	2	11
8	4324 電通グループ	70.8	22.6	5	13.8	12	8.0	4	20.8	5	5.6	9	5
9	3635 コーエーテックホールディングス	66.1	21.1	9	15.0	4	7.1	14	17.4	9	5.5	10	10
10	9468 KADOKAWA	66.0	21.0	10	14.2	10	7.4	12	17.1	10	6.3	5	9
11	7974 任天堂	64.7	20.7	11	14.5	5	7.6	9	16.0	12	5.9	7	6
12	9766 コナミグループ	61.0	18.7	13	13.2	13	7.1	14	16.2	11	5.8	8	14
13	3659 ネクソン	60.3	19.9	12	14.5	5	7.0	17	13.6	16	5.3	11	12
14	9404 日本テレビホールディングス	53.8	16.0	16	12.0	15	7.6	9	13.7	15	4.5	14	16
15	4676 フジ・メディア・ホールディングス	52.1	16.0	16	11.6	16	7.3	13	13.2	17	4.0	17	22
16	9603 エイチ・アイ・エス	52.0	14.1	20	12.1	14	8.3	1	14.3	13	3.2	19	15
17	9409 テレ朝日ホールディングス	51.9	16.0	16	11.6	16	7.5	11	12.6	18	4.2	15	19
18	9684 スクウェア・エニックス・ホールディングス	50.8	16.1	15	9.6	19	6.7	18	14.3	13	4.1	16	13
19	9602 東宝	48.7	16.8	14	10.2	18	6.4	19	11.5	19	3.8	18	21
20	9605 東映	38.2	14.4	19	8.2	20	4.6	20	8.0	20	3.0	20	
	評価対象企業評価平均点	62.90	19.61		13.32		7.39		17.05		5.53		

2023年度評価項目および配点（広告・メディア・エンタテインメント）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業のKPI等）の実績および見通しは、ウェブ等を活用し、十分かつ継続性を持って開示されていますか。また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（28点）	配点
①統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	10
②価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか。	6
③環境保全に関する情報、社会に関する情報、人的資本に関する情報について、積極的に開示していますか。	6
④資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか。	6
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください（新たな追加項目で企業も関心が高い項目なので、積極的にコメントしてください）】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。【過去1年間を自安に評価】【充実していたサービスないし施設・設備・事業名をコメント欄に記入して下さい】	12

広告・メディア・エンタテインメント専門部会委員

部会長	前田 栄二	SMBC 日興証券
部会長代理	城戸 謙治	アセットマネジメント One
	石原 太郎	大和証券
	大場 剛平	野村アセットマネジメント
	岸本 晃知	みずほ証券
	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	山村 淳子	シティグループ証券

評価実施アナリスト（36名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	関根 哲	大和証券
石橋 剛	三井住友 DS アセットマネジメント	寺島 正	大和アセットマネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	永田 和子	QUICK
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	坂東 俊輔	東京海上アセットマネジメント
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFJ 証券	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
小野 まな実	三菱 UFJ 信託銀行	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
河内 亮	丸三証券	福井 悠香	第一生命保険
岸本 晃知	みずほ証券	宝水 裕圭里	SBI 証券
城戸 謙治	アセットマネジメント One	前田 栄二	SMBC 日興証券
栗原 智也	SBI 証券	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	村上 宏俊	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	森田 正司	岡三証券
佐竹 一仁	ニッセイ アセット マネジメント	安田 秀樹	東洋証券
佐藤 啓吾	ニッセイ アセット マネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
佐原 孝輔	丸三証券	山村 淳子	シティグループ証券
山藤 秀明	QUICK	余吾 智	大和アセットマネジメント
鈴木 崇生	大和証券	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。